

視 察 研 修 等 報 告 書

令和7年2月18日



坂井市議会

議長 戸板 進 殿

会 派 名 政友会
報 告 者 川畑 孝治

1. 日 時 令和7年1月29日(水)～1月31日(金)
2. 視察研修先
 - (1) 長崎市役所 長崎県長崎市魚の町4-1
 - (2) 柳川市役所 福岡県柳川市本町87番地1
 - (3) ボートレーサー養成所 福岡県柳川市大和町大坪54-1
3. 視察研修内容
 - (1) 議会運営のICT化の取り組みについて
 - (2) 柳川市の観光振興について
 - (3) ボートレーサー養成所について
4. 参加者 川畑孝治、伊藤宏実
5. 内容詳細
 - (1) ICT化取り組みの概要(予算)
議会中継・録画について
本会議場・委員会室などの設備について
その他
 - (2) 現況について
 - ・市内観光地(施設)
 - ・施設別の観光客の入込数(外国人観光客)体験観光・滞在型観光の取り組みについて
観光情報発信の取り組みについて
インバウンドの取り組みについて
その他
 - (3) ボートレーサー養成所の現状と取り組みについて

6. 所見・感想等

- (1) 長崎市役所—議会運営のICT化の取り組みについて
(伊藤 宏実)

長崎市議会が進める「議会改革」について視察しました。同市の取組みで一番興味深かったのは、議場で大型モニターを使い発言の内容を即時に文字表示している事でした。文字変換には、AIが使われているとのことで、学習機能があるため、議会や行

政の用語も日を迫うごとに素早く正確に変換するということでした。

議場を訪れる傍聴者の方々にとっては、聞き取りにくい言葉や用語があったり、耳が聞こえにくい方がおられたりします。そういう中で、発言の文字化、モニターに映し出すというのは、大変親切な対応です。議会の議論が市民の身近なところに近づいていく施策で、大変素晴らしいと感じました。是非とも、我が議会でも取り入れたいものです。

また、各種資料も出来るだけホームページに公開しているとのことで、徹底して市民目線に立った議会の対応に感心しました。

(川畑 孝治)

長崎市議会において議会運営委員会の ICT 化の取り組みについてお聞きした。

長崎市議会においては令和 5 年 2 月から、AI 会議録システムを導入していて会議の発言がリアルタイムで表示できることから、傍聴席にモニターを設置して表示することにしたとのことであった。

費用については令和 5 年度決算では、AI 会議録システム使用料、会議録作成業務委託、字幕表示システムにかかる備品購入等合計で 2,403,058 円であった。

議会中継では、本会議を編集せずに、職員がテロップや資料の差し込みを行い生中継を行っていた、他に録画中継も行っていた。

本会議場は庁舎が近年改築したことで最新の設備が導入されており、電子決裁の導入や、各議員席に電源コンセントが用意されているのは良いと感じた。

(2) 柳川市役所―柳川市の観光振興について

(伊藤 宏実)

柳川市は福岡市から列車で 1 時間、車で 2 時間程度の距離にあります。市街地を流れる運河が有名で、「水郷のまち」とも呼ばれています。近年、外国人観光客が多く訪れていますが、交通の要所である福岡市から適度な距離にあること、運河や食べ物、お祭りなどのイベントと、観光客が楽しめるコンテンツが多くあることなどから、コロナ後のインバウンド回復は顕著で、同市の主要産業となっています。

また、有明海を干拓した広大な農地があり、水稻をはじめ果物や野菜などの生産も盛んにおこなわれているとのことでした。

市役所訪問の後、市が整備した子供向けの広場である「むつごろうランド」へ行ってきました。広い芝生施設には遊具をはじめバーベキュー施設などもあり、一日ゆっくりと遊べる、いい施設でした。年間利用者は 8 万人以上となっている施設で、観光客だけでなく住んでいる市民にとって素晴らしい施設であると感じました。

(川畑 孝治)

柳川市役所にて、観光振興についてお聞きした。

柳川市は JR 博多駅や福岡空港から列車や車での利便性が良く、佐賀空港からも近距離の所にあり観光客にとっても訪れやすい位置にある。

柳川の掘割（水路）は歴史も古く弥生時代から掘られた水路で、総延長は 930 kmにもなり、今日までその水路を守り、観光資源として柳川のシンボリック的存在になっている。川下り（お堀めぐり）は国内の観光客だけではなく台湾、韓国をはじめ海外からの観光客にも人気となっているとの事で、多言語対応オーディオガイドも活用しているとの事であった。

柳川市は有明海に面しており、広大な干拓事業により米・麦・大豆・ブドウ・イチゴなど農業も盛んに行われていた。

また、干拓地の一画に大型遊具を中心とした「むつごろうランド」という体験型観光も市で整備しており、地元を中心として多くの親子で人気の観光地となっていた。

(3) ボートレーサー養成所—ボートレーサー養成所の現状と取り組みについて

(伊藤 宏実)

同養成所は、日本で唯一、モーターボートレーサーの養成を行う施設です。一般財団法人のモーターボート競走会が設立・運営している施設です。

ボートレーサーを目指す人は、この養成所に入学し 1 年間の訓練期間を経て、ボートレーサーになるとのことでした。

しかしながら、養成所の訓練は非常に厳しいもので、半期に 50 名の入学者がいますが、晴れてレーサーになれる卒業者は半分の 25 名程度とのことでした。

ボートレーサーは、賞金を稼げる華やかな職業に見えますが、命の危険を伴う厳しい職業です。また、公営ギャンブルとしての、コンプライアンス順守は必須の課業であり、訓練生は非常に厳しいそれらのカリキュラムに取組み“夢の舞台”に立つ、とのことでした。

我が坂井市には三国ボートがあります。多くの市内外の方が楽しんでいます、その舞台で活躍する選手の苦労や厳しさをまざまざと実感しました。運営者として坂井市の責任も大きいことを実感することができて、大変有意義な訪問でした。

(川畑 孝治)

柳川市大和町の、日本モーターボート競走会が運営する、ボートレーサー養成所を視察させてもらった。

大和干拓地の一面に大きな練習用のプールを 2 面要した養成所では、選手の養成訓練、審判員及び検査員の養成訓練、現役選手、審判員及び検査員の定期訓練が行われていた。

訓練生の募集は年 2 回との事で、申込者は約 1,200 名。書類審査で 200 名に選抜されて、そのうち 50 名が訓練生になることができるとの事で狭き門と感じた。

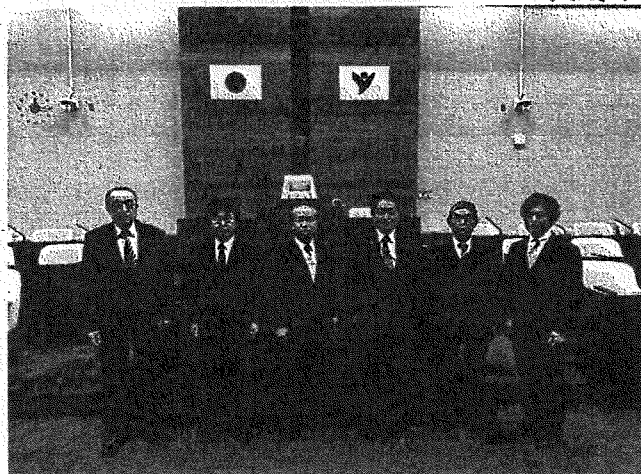
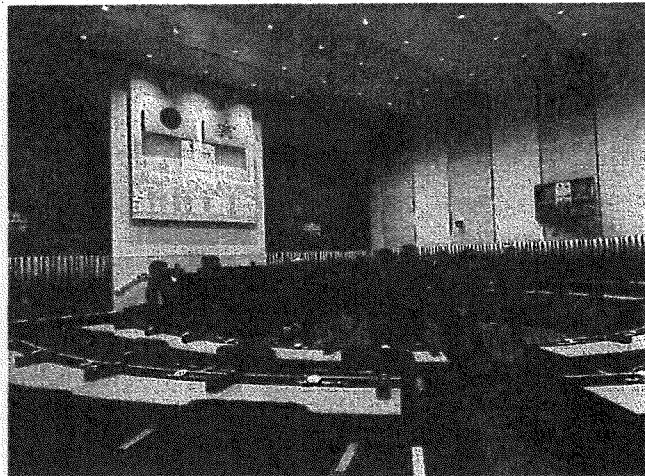
訓練生になっても、規則正しい生活とボートレースという体験したことの無い訓練と、ボートの転覆時には命にかかわることから、1 年間を経てプロレーサーになるのは半数から 30 名程度と聞き、大変な訓練生活と感じた。

今回の訓練生の中には、三国支部からはいないとの事で、地元からもスター選手が育ってほしいと感じている。

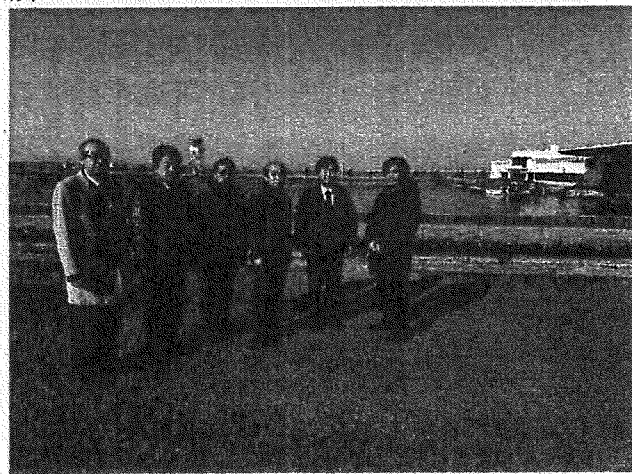
7. 添付書類



▲長崎市役所



▲柳川市役所



▲ボートレーサー養成所

会 派 内 供 覧